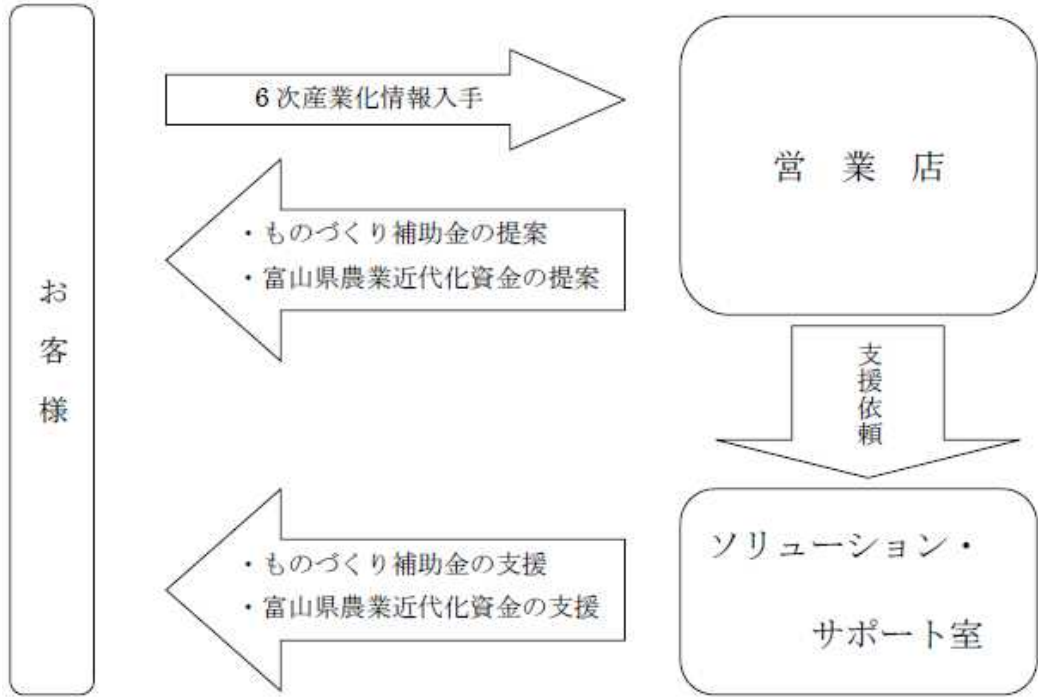
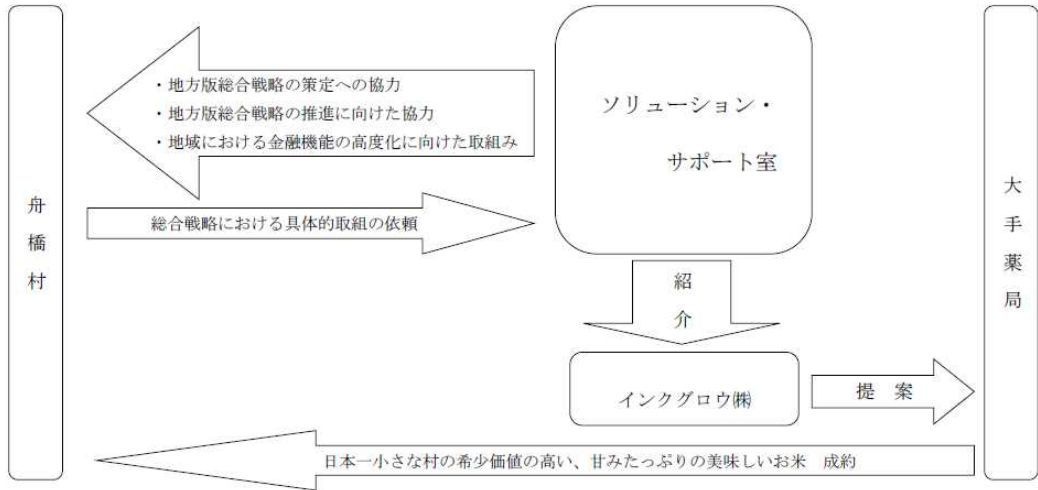


銀行名	富山銀行
タイトル	廃業支援から事業承継支援へ移行し地域の診療所と雇用を確保した事例
取組み内容	当行滑川支店のメイン取引先であるN外科医院が既に 70 歳後半を迎えており引退を検討しているとの店内情報から、廃業支援としてソリューション・サポート室に支援要請があり、顧客への同行訪問を実施した。 同医院の要望は廃業支援であり、同医院が受け持っている 5 事業所の産業医の引継と医院の不動産の売却を希望された。 また、同医院には看護師と事務員が数名勤務しているが、そのうちの事務員が母子家庭で継続的な勤務が急務であるにもかかわらず、代わりの勤務先が見つかりにくい状況であり、同医院の医院長夫人もその就職先のあっせんも希望されていた。 その課題を解決する為の方策として、ソリューション・サポート室では、医院としての事業価値とその不動産を売却する事業譲渡スキームにより医院長の手残りの増加と女性事務員の継続雇用が実現できるスキームを提案し同意を得た。 当行の提携先であるM&A仲介会社へ紹介し、事業譲渡の手続きを行える体制を整備し、当行の紹介で富山支店取引先の医療法人財団G会へ仲介会社を通して事業譲渡の提案を行った。 同提案がG会の富山県内におけるサテライト戦略に合致し、同医院の事業譲渡が行われることとなり、雇用も継続されることとなった。 事業譲渡の受け皿はG会理事長の個人資産管理会社で行うこととなり、その譲渡代金と改装資金、機械購入代金として7,000 万円の長期資金の実行につながるとともに、M&A仲介会社から顧客紹介手数料として154 万円の役務収益獲得となる。 事業譲渡と不動産売却代金についても、滑川支店において定期預金 800 万円の獲得につながった。 <pre> graph TD A[営業店] -- 相談 --> B[ソリューション・サポート室] B -- 紹介 --> C[提携 M&A 会社] C -- 相談 --> B B -- 提案 --> D[お客様] C -- 提案 --> E[お客様（購入側）] E -- 購入 --> D </pre>

銀行名	富山銀行
タイトル	6次産業化への取組支援として、ものづくり補助金を活用した新規融資の取扱
取組み内容	アベノミクス 第3の矢「成長戦略」である日本再興戦略2015では、農林水産業は地域に密着した産業であると同時に、地域における雇用を支える産業として位置付けられており、農林水産業の「稼ぐ力」を強化し「攻めの経営」の確立を目指していることから、当行としても農業への取引推進を進めている。 上記から、農業者への融資を推進している中、6次産業化を目指す情報をキャッチした。 自社で栽培した野菜の規格外品（主に廃棄されるモノ）の活用として、ガレット（そば粉でできたクレープみたいなもの）の移動販売事業を始めたいという情報を入手。この事業は革新的事業に該当すると考え、経済産業省のものづくり補助金の公募時期のタイミングであったことから、移動販売車両購入資金の一部としてものづくり補助金への申請を提案し採択となった。販売車両購入資金としての残りの資金調達として、低利である富山県の制度融資（富山県農業近代化資金）を提案し、新規融資の取扱いとなった。 本件取扱いにより、ビジネスダイレクトを契約。 本先が以前より行っている「かぶら寿司」の生産販売（6次産業化）に係る売上代金の一部が当行口座へ入金指定。 本先（農業者）の経営の多角化・安定化に寄与。 制度融資であることから、顧客の実質金利は0.25%と低金利。 制度融資であることから利子助成制度があり、当行の金利収入としては実質1.95%となり相応の金利収入となる。 

銀行名	富山銀行
タイトル	地方創生に係る地域ブランド品のビジネスマッチング成約による新規融資の取扱
取組み内容	平成 26 年 12 月 27 日に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で地域金融機関への役割発揮要請事項として、①地方版総合戦略の策定への協力、②国の総合戦略や地方版総合戦略の推進に向けた協力、③地域における金融機能の高度化に向けた取組み、の 3 点が挙げられている。 地方創生への貢献を目的として、各行政区の「地方版総合戦略」に積極的に関わっている。 富山県の中央部にある舟橋村の「舟橋村創生プロジェクト総合推進会議」に参加しており、総合戦略の具体的な施策として「農事組合法人の収入拡大」を掲げている。この取組みへの協力として、当行の連携先であるインクグロウ㈱との連携により、地域ブランドの販路開拓につながるビジネスマッチング活動を行った。 この活動の結果、舟橋村産こしひかり（日本一小さな村の希少価値の高い、甘みたっぷりの美味しいお米）が大手薬局（東証一部上場）の上層客向けポイント交換DM企画に掲載され、5kg 入り 3,500 袋が成約となった。 このコシヒカリを生産した農事組合法人の設備資金（育苗施設資金）として新規融資の取扱い。 総合戦略に貢献したことにより、総合戦略を進めていく上での主体的な立場を担っている。 農事組合法人自身が自社のお米に自信を持ち、自ら積極的に販路開拓を行うようになった。  <pre> graph LR A[舟橋村] -- "・地方版総合戦略の策定への協力 ・地方版総合戦略の推進に向けた協力 ・地域における金融機能の高度化に向けた取組み" --> B[ソリューション・サポート室] A -- "総合戦略における具体的取組の依頼" --> B B -- "紹介" --> C[インクグロウ㈱] C -- "提案" --> D[大手薬局] D -- "日本一小さな村の希少価値の高い、甘みたっぷりの美味しいお米 成約" --> A </pre>

銀行名	富山銀行
タイトル	優れた創業や新事業を表彰する「とやまベストビジネスアワード」への参加による創業支援
取組み内容	当社は平成 26 年 7 月設立。代表者は現在、北陸先端科学技術大学院大学に所属し、地域おこし協力隊として石川県羽咋市と協力しながら、害獣駆除イノシシの石川県特産品ブランド化を目指している。石川県では害獣対策として猪を「害獣」認定し、年間で 2,000 頭近い猪を駆除しており、その猪の殆どが廃棄処分されている。猪肉を販売する企業、団体は数多く存在するものの、皮や毛に関しては産業廃棄物として廃棄されており、有効活用されていないのが現状。 同社のビジネスモデルは、猪肉だけではなく、猪の全てを有効活用し、毛や皮に関するの製品開発も併せて実施し、食肉や革・毛等に関する特産品が他県と比べ少ない石川県に、新たな特産品を創出していくものである。 ・猪の肉、皮、毛を石川県内の職人と共にブランド化して販売する。 商品例) 猪肉：各部位をブロック肉として石川県内のフレンチ・イタリアンレストラン等へ卸売販売、ソーセージ・ハム・ジャーキー等のおつまみ系食品の加工 革、毛：財布・名刺入れ・バッグ等の小物、ネックレス・ブレスレットなどのアクセサリー販売 ※現在、猪肉をソーセージ、猪革をバッグ・アクセサリーとして製品化済 昨年 12 月に開催した「とやまベストビジネスアワード 2015」に参加し、特別賞を受賞。発表の場が大変良い刺激となり、賞金ももらえたことから、益々自信が持て、やる気が上昇した。 地域おこし協力隊として、羽咋市とも協力して事業展開しており、業界での経験・知識も充分なことから、創業資金を融資した。 現在、地元レストランを中心に猪肉の販売を展開。 また、猪の革を使った財布・名刺入れなどの小物もマスコミ等に取り上げられ、金沢市内に当初 1 号店となるショップを平成 28 年 7 月よりオープン予定。 猪は害獣としてではなく、地元の特産物としての評価が高まることが十分に期待されている。

銀行名	富山銀行
タイトル	高岡法科大学経済学部での寄附講座「銀行論」の実施
取組み内容	高岡法科大学において平成 27 年前学期の間、全 14 時限に亘り、当行役職員らが講師を務めて寄附講義「銀行論」を実施しました。 地域貢献・文化支援活動の一環として平成 25 年より隔年で実施しており、今回で 2 回目となります。 

銀行名	富山銀行
タイトル	「全店一斉ボランティア清掃活動」の実施
取組み内容	平成 27 年 7 月、「全店一斉ボランティア清掃活動」を実施しました。 当行では、創立 40 周年（平成 6 年 2 月）から毎年ボランティア清掃活動を全行挙げて実施しており、今年で延べ 25 回目となります。今回も営業店ごとに、県内計 37 カ所で実施しました。 また、平成 28 年 4 月、ボランティア清掃活動が長年にわたり近隣地域の住みよい環境づくりに貢献していることを評価され、県土美化推進県民会議において表彰されました。

銀行名	富山銀行
タイトル	「社会に学ぶ14歳の挑戦」の受け入れ
取組み内容	4つの支店において、「社会に学ぶ14歳の挑戦」として地元の中学生9名を受け入れました。主な活動として、支店・本部の見学、自分の口座作成、お取引先へ支店長らと同行訪問、あいさつ・言葉遣い・身だしなみのレクチャー等を行い、充実した時間を過ごしました。 

銀行名	富山銀行
タイトル	「夢作文大募集 13」の実施
取組み内容	県内の小学生を対象に「夢」をテーマとした作文を募集する企画である「夢作文大募集」を実施しました。 本企画は、次代を担う子供たちが夢をもって健やかに成長することを願い、平成 15 年度より毎年実施している取組みで、今回で 13 回目を迎えました。 

銀行名	富山銀行
タイトル	「ポエム大賞」および「ポエム教室」の実施
取組み内容	小・中・高校生を対象に詩を募集する企画である「高岡・山町ポエム大賞」を実施しており、毎年、直木賞作家のねじめ正一氏に選者を務めていただくとともに、県内各地の小学校等で「ポエム出前教室」を開催しています。ポエム大賞は今年で13回目を迎えました。 